

「売上は客の満足度」

先輩農業者に学ぶ

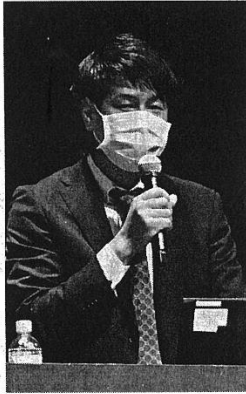
農業高のつどい さんが講演

「第57回新しい農業をめざす高校生等のつどい」(県、県学校農業クラブ連盟などの主催)がこのほど、四季の森生涯学習センターで行われた。県内の11農業高校、県立農業大学の生徒167人が参加。丹波篠山市の農業者による講演や、分科会での対話などで就農への理解を深め、進路の参考にした。

篠山東雲の さん(2年、丹南中出身)と さん(同、篠山東中出身)が司会を務め、県学校農業クラブ連盟会長で、篠山産業の さん(3年、柏原中出身)のあいさつで開会した。

講演会では、丹波篠山大内農場の さん(41)、「新たな挑戦がパワーの源」と題して発表し、22歳から「親元就農」で農業を始め、経営面積65畝にまで成長した現在までを振り返り、「売りに上

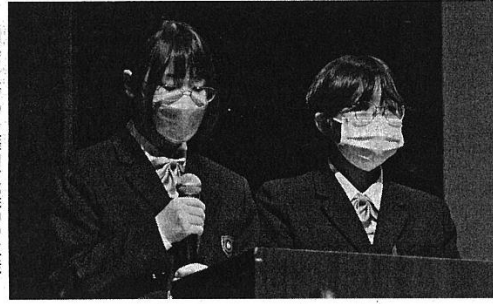
げ目標を立てることが大切。売りに上るはお客様の満足度を測るバロメーター。目標達成の喜びを分科会では、 さんを含めた農業者5人が農業への思いを語り、生徒の質問に答えた。 さんは「軌道に乗るのに10年かかった。つまづくところは皆同じ。先輩の話を聞



高校生らに講演する大内農場の さん



農業者の話に熱心に聞く高校生



司会を務める篠山東雲高の生徒

いたら5年くらいに短縮できる。目標とするリスクを減らすには見えないところで「想定外」をカバーする。神戸大の農業ホスピタリティをきっかけに5年前に同市で就農した さん(29)は黒田は今後の農業の見通しを聞かれ、「もうからなそうというイメージは、現在の『農地を維持する農業』をイメージしているからで、これから『仕事としてもうける農業』を実践する若い層が入れ替わればイメージも変わってくるのでは」と話した。

行政関係者も参加し、生徒に就農に関する情報などを提供した。

また、同市に農場がある、畜産と果樹栽培農家の さん(46)は生徒から肉質の良い生を

2022年12月1日
丹波新聞